

環境目標

取り組みの背景・考え方

地域および地球規模の環境保全は、エネルギービジネスを中心に事業を展開するDaigasグループにとって極めて重要な使命です。当社グループは、「企業行動憲章」「企業行動基準」「環境方針」に基づいて、環境保全活動を推進しています。事業活動に伴う温室効果ガス削減、資源循環等に関する中期環境目標を設定して、天然ガスの普及拡大、燃料電池等の高効率機器の開発・普及、省エネルギー提案、再生可能エネルギーの導入等を積極的に進めてきました。また、世界的な気候変動対応の潮流を踏まえ、カーボンニュートラル社会の実現に貢献するため、事業活動を通じて発生するCO₂やメタン(CH₄)などの温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。液化天然ガス(LNG)の輸送段階や、都市ガスの製造段階、発電段階におけるCO₂排出量の削減、事務所での省エネルギーに関する様々な取り組みを積極的に進めています。

また、カーボンニュートラル化潮流がさらに加速し、世界経済の停滞やエネルギー市場におけるボラティリティの高まりが顕在化するなか、国のエネルギー政策の基本方針である“S+3E^{*}”の観点からもエネルギーの安定供給・保安の確保とエネルギーのカーボンニュートラル化の両立が重要と考えています。

2021年1月には「カーボンニュートラルビジョン」、同年3月には「中期経営計画2023」を発表し、カーボンニュートラル化をさらに推進しています。2023年3月には「エネルギートランジション2030(ET2030)」を発表し、エネルギーのカーボンニュートラル化への移行に向けた道筋の全体像を示しました。中長期目標に向け、気候変動対策への取り組みを加速させていきます。

「Daigasグループ環境方針」「中期経営計画2023」に基づき策定した「環境目標」および活動実績は、以下のとおりです。

※S+3E：安全性(Safety)、安定供給(Energy security)、経済効率性(Economic efficiency)、環境性(Environment)

■ 環境目標・実績 ビューローベリタスジャパン(株)による第三者検証済みです(※が検証対象項目)

分野	項目	目標	目標年度	2023年度実績	
気候変動	グループCO ₂ 排出量 [*]	CO ₂ 排出量実質ゼロ	2050年	2,563万トン	
		2,702万トン [*] (2017年度比 ▲500万トン)	2030年	2,463万トン	
	自らの事業活動でのCO ₂ 削減	再生可能エネルギー電源比率	50%程度	2030年	22.4%
		再生可能エネルギー普及貢献量	500万kW	2030年	317万kW
	250万kW		2023年		
お客さま先・バリューチェーンのCO ₂ 削減	<ul style="list-style-type: none"> 天然ガスや再エネ等、高効率・高付加価値の機器普及により、低・脱炭素化を推進 LNG船の効率的な運航、低公害車等の利用拡大 高品質な、情報・不動産・材料分野の各ソリューション普及による環境価値の提供 		2030年まで毎年	主な取り組みは□□P.044をご覧ください	
社会へのCO ₂ 削減の貢献	CO ₂ 排出削減貢献量(お客さま先や海外での削減貢献も含む) [*]	1,000万トン(2016年度基準)	2030年	501万トン	
資源循環	自らの事業活動での3R	産業廃棄物・一般廃棄物(最終処分率) [*]	2%以下	2030年まで毎年	1.4%
		導管工事掘削土(最終処分率) [*]	1%以下		0.1%
		PE管(リサイクル率) [*]	100%		100%
		ガスメーター(リユース率) [*]	98%以上		99.4%
		関係会社	産業廃棄物・一般廃棄物(最終処分率) [*]		4%以下
	バリューチェーン	お客さま先や事業活動での使用済み機器等の3Rを推進する			主な取り組みは□□P.050-P.052をご覧ください
生物多様性	「Daigasグループ生物多様性方針」に基づき、事業活動において生物多様性に配慮する		2030年まで毎年	主な取り組みは□□P.053-P.058をご覧ください	
技術開発	社会の低・脱炭素化に貢献し、強靱な事業基盤を支える技術開発を推進する		2030年まで毎年	主な取り組みは□□P.059-P.062をご覧ください	
グリーン調達・購買	お取引先と連携したグリーン購買や「グリーンパートナー制度」の推進等を行う		2030年まで毎年	主な取り組みは□□P.098をご覧ください	

※ 国内サプライチェーン(スコープ1・2・3)における排出量(「ET2030」で新たに2030年度目標を設定)

新たな環境目標設定について

Daigasグループは、2024年3月に「中期経営計画2026」を発表し、2050年のカーボンニュートラル実現に向けたトランジション期の貢献とカーボンニュートラル社会への加速に向けた土台構築を進める期間として位置づけ、重点戦略を示しました。

また、2021年6月の「自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)」発定や2022年12月の「生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)」において採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」を踏まえて策定された「生物多様性国家戦略2023-2030」を参照し、2024年4月に「Daigasグループ生物多様性方針」「Daigasグループ環境方針」の改定を行いました。

これらに基づき、新たに「環境目標」を策定しました。

■ Daigasグループ環境目標(2024-2026)

分野	項目	目標	目標年度	
気候変動	グループCO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量実質ゼロ	2050年	
		2,702万トン* ¹ 国内▲500万トン(2017年度比)	2030年	
	社会へのCO ₂ 削減の貢献	CO ₂ 排出削減貢献量* ²	1,000万トン	2030年
			700万トン	2026年
	自らの事業活動でのCO ₂ 削減	再生可能エネルギー普及貢献量	500万kW	2030年
			400万kW	2026年
		再生可能エネルギー電源比率	50%程度	2030年
			30%程度	2026年
	技術開発での貢献	e-メタン社会実装の推進	1%導入	2030年
			e-メタン サプライチェーンPJにおける最終投資決定	2026年
メタネーション技術開発の推進		SOEC パイロットスケール(400Nm ³ /h級)での技術確立	2030年	
		SOEC GI基金事業第2フェーズ移行	2026年	
資源循環	大阪ガス・基盤会社・ネットワーク会社	産業廃棄物・一般廃棄物	再資源化率 98%以上	
		ポリエチレン(PE)管	再資源化率 100%	
		ガスメーター	再資源化率 100%	
	関係会社	産業廃棄物・一般廃棄物	再資源化率 96%以上	
	バリューチェーン	お客さま先や事業活動での使用済み機器等の3Rを推進する		
生物多様性	生物多様性への影響評価を通じたリスクの把握と保全の取り組みを推進する		2030年まで毎年	
	ガス導管工事における掘削土の再利用促進による環境保全	導管工事掘削土の再資源化率 99%以上		
水資源	水ストレスの影響評価を通じて水リスクを把握し、水資源の保全を推進する		2030年まで毎年	
	水質汚染の防止	水質汚染に関する環境規制違反0件		

*1 国内サプライチェーン(スコープ1・2・3)における排出量

*2 2017年度以降にお客さま先や自社事業活動に導入する高効率設備や低炭素エネルギー等により、算定年度1年間にCO₂排出を削減すると推定される効果を算定